

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	大谷巳弥子	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	只塚廃寺(ただつかはいじ)					
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1996年(平成8)3月22日					
所在地	葛城市染野只塚741-1					
所有者 管理者	国(財務省)					
員数						
時代区分	白鳳時代					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	無し					
公開	自由					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ()					
当面の課題	金堂跡と考えられる礎石上には、しっかりと盛り土がされていて、国有地となっているため、破壊の心配は無い。					
今後の課題	案内板や説明板が全く無いため、誰も寺院跡とは気付かない状態。葛城市の学芸員さんにお聞きしたところ、説明板の設置について多くの方から指摘を受けているが、国の管理地のため、市での設置は難しく、県に早くから要望を出しておられるとのこと。早く設置が実現されることを期待する。					
その他 (由緒など)	1981年(昭和56)に首子古墳群の7号墳として県指定を受けたが、1994年(平成6)・1995年(平成7)の発掘調査で、5間×4間の庇付きの礎石建造物跡であることが確認され、只塚廃寺と指定変更された。出土瓦から、7世紀前半の簡単な仏堂として始まり、7世紀後半に、南北57m東西60mの寺域を持つ法隆寺式伽藍配置の寺院が造営されたと考えられている。近くの溝から、石仏の頭や脚、埴仏も出土している。					
コメント	葛城地域で最も古い7世紀前半の瓦が出土していることから、この地域での仏教受容の様相が分かる。出土石仏の石材や製作技法に朝鮮半島の影響が見られることから、渡来人との交流も考えられる。また、當麻寺で同范の瓦が使用されていることから、當麻寺の前身寺院と推測され、大阪府太子町の万法蔵院から、只塚廃寺、當麻寺へと変遷し、當麻寺の伽藍が完成した9世紀には廃絶したと考えられている。このような古代ロマンあふれる寺院跡でありながら、全く注目されていないことを残念に思う。當麻寺や石光寺と合わせたウォークルートに加えられるような整備をしていただけることを願う。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	大谷巳弥子	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	只塚廃寺(ただつかはいじ)
------	---------------



首子古墳群の案内地図中に「只塚古墳」の表示



葛城市歴史博物館に展示されている出土瓦



出土された埴仏と仏頭(檀考研HPより)



礎石発掘現場(葛城市歴史博物館図録より)

